

都市再生整備計画 事後評価シート
月若町周辺地区

平成24年3月

兵庫県芦屋市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	兵庫県		市町村名	芦屋市		地区名	月若町周辺地区			面積	12.0ha		
交付期間	平成21年度～平成23年度		事後評価実施時期	平成23年度		交付対象事業費	203百万円	国費率	40.0%				
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		基幹事業	事業名 高質空間形成施設(市道216号・217号の美装化, 市道367号の安全対策, 山手幹線地下通路の美装化)									
			提案事業	地域創造支援事業(月若公園のリニューアル, 山手幹線地下通路の防犯対策)									
	当初計画から削除した事業		基幹事業	事業名	削除/追加の理由				削除/追加による目標、指標、数値目標への影響				
			提案事業	—	—				—				
	新たに追加した事業		基幹事業	高質空間形成施設(市道390号線のコミュニティー道路化)	阪急芦屋川駅北側の地区について再検討した結果、駅周辺のバリアフリー化や芦屋川を挟んだ東西方向の動線確保等多くの課題解決が必要であるほか、事業対象区間の一部が都市計画決定している(都)山手線に位置することから、最小限の投資で効果発現を期待できる道路修繕に変更した。				—				
			提案事業	—	—				—				
交付期間の変更		当初	平成21年度～平成23年度	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		—							
		変更	—	—		—							
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
	指標1	公園の利用度	人/日	20	H20	40	H23	モニタリング	56	○	あり なし	子供から高齢者まで利用できる公園になったことが目標達成につながった。	—
	指標2	歩行時の安全性	%	14	H20	28	H23		34	○	あり なし	可能な限り、安全で快適な歩行者空間を確保したことが目標達成につながった。	平成24年5月
	指標3	山手幹線の供用開始後の周辺道路への不安度	%	77	H20	50	H23		51	△	あり なし	安全対策及び道路の修繕が目標達成につながった。	平成24年5月
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
	その他の数値指標1	芦屋川横断地下通路の防犯対策に対する満足度	%	—	—				48		通常の防犯対策よりワンランク上の防犯設備(システム)を整備したことが評価につながった。(不満足:13%)	平成24年5月	
	その他の数値指標2	リニューアルした月若公園の芦屋川景観との調和に対する満足度	%	—	—				86		植栽及び遊具等施設の色について配慮したことが満足度に貢献した。	平成24年5月	
	その他の数値指標3	歩道をカー舗装化した芦屋川沿い道路の芦屋川景観との調和に対する満足度	%	—	—				64		舗装や排水構造物を更新し、景観や歩行製性が向上したことが満足度に貢献した。	平成24年5月	
4)定性的な効果発現状況	—												
5)実施過程の評価	実施内容			実施状況				今後の対応方針等					
	モニタリング	—		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				—					
	住民参加プロセス	月若公園リニューアルにあたっては、モデルを利用しての地元説明会や婦人会及び子ども会等との意見交換、現場説明会を開催した。		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● —					
	持続的なまちづくり体制の構築	月若公園における地元住民と協力した維持管理体制 山手幹線地下通路に設置したギャラリーにおける市民団体による作品展示		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 地元住民及び市民団体と適宜協議の調整を図る。					

様式2-2 地区の概要

月若町周辺地区(兵庫県芦屋市) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
大目標: 山手幹線の整備に伴う快適な空間の確保 目標1: 安全で快適なまちづくり 目標2: 芦屋川の優れた景観を生かしたまちづくり	公園の利用度	単位: 人/日	20	H20	40	H23	56	H23
	歩行時の安全性	単位: %	14	H20	28	H23	34	H23
	山手幹線の供用開始後の周辺道路への不安度	単位: %	77	H20	50	H23	51	H23

■ 基幹事業(道路)
市道227・229・390号線の道路修繕

■ 基幹事業(高質空間形成施設)
阪急芦屋川駅前広場の公衆トイレのバリアフリー化

□ 提案事業(地域創造支援事業)
月若公園のリニューアル

■ 基幹事業(道路・高質空間形成施設)
市道216(左岸線)・217(右岸線)号線の改良及び美化

■ 基幹事業(高質空間形成施設)
市道367号線の安全対策

■ 基幹事業(高質空間形成施設)
山手幹線地下通路美化

□ 提案事業(地域創造支援事業)
山手幹線地下通路防犯対策

凡例
■ 基幹事業
□ 提案事業
--- 関連事業

市道227号線
市道229号線
市道216号線(左岸線)
市道217号線(右岸線)
歩道整備状況

ギャラリー設置
防犯カメラ設置
モニターテレビ設置
監視要請インターホン設置

まちの課題の変化

- ・芦屋川沿いの道路は、一部区間を除いて道路改良により歩道がバリアフリー化され、また自然色のカラー舗装化により芦屋川の景観と調和するようになった。
- ・月若公園は、南側半分の復旧に併せ、子供から高齢者まで利用できる公園にするため、地元住民の意見要望を取入れ全体をリニューアルしたことで、公園の利用者が増加し、地元住民から高い支持を得ている。
- ・地下通路は、防犯設備(システム)を整備し、24時間体制の機械警備を実施した。アンケート調査では、地下通路の防犯対策について「満足」と答えた人の割合が48%であるのに対して、「不満」と答えた人は13%と少ない。なお、平成22年10月24日の供用開始以来、犯罪等は発生していない。
- ・アンケート調査の結果から、山手幹線が実際に供用開始されても、依然として半数の人が、地域内生活道路での通過交通増加やその影響について不安を感じているものの、その割合は、従前値の77%から51%に減少した。

今後のまちづくりの方策(改善策を含む)

今後、整備した道路や公園を適切に維持管理していくこととなるが、山手幹線や周辺道路の交通や環境等の状況を定期的に計測し、必要に応じて対策を検討していく必要がある。